目　　次

序
目次・例言
古代の鏡 ―霊魂を籠める器物― …… 桐原　健 … 1
鏡作部・鏡師と鏡磨 …… 遠藤元男 … 5
鏡の名称と変遷 …… 8
墳墓に埋納された鏡 …… 10
信仰と結びついた鏡 …… 19
　シャーマンの用いた鏡 …… 20
　神へ供えた模造鏡 …… 22
　御霊鎮の鏡 …… 24
　御神体となった鏡 …… 33
調度品としての鏡 …… 34
現代の民間信仰と鏡 …… 44
鏡の製作と研磨 …… 45
現代から未来へ …… 48
出品目録 他 …… 49

例　　言

1. 本書は、第13回企画展「鏡の文化」の解説と展示資料の紹介を主としている。
2. 紙面の都合上、展示資料の一部を割愛させていただいた。また展示品の一部を変更する場合もある。
3. 陳列の順序は、本書と必ずしも一致しない。
4. 本文中での敬称等は、省略させていただいた。
5. 本書の図版名称中、ゴジック体文字は展示資料である。
6. 指定文化財の名称は、国指定を重要文化財と、県市町村名を付し表記した。
7. 展示資料・写真等の貸与およびご教示いただいた方々は、失礼ではあるが冊子末に記した。
8. 本書・展示における責任は、すべて長野市立博物館にある。

鏡の文化

―手鏡から望遠鏡まで―

自然の恵みや生命の安全を太陽に祈る習慣は、自然の脅威におののく人々の心の中に生まれ、太陽・光を崇める世界では、鏡はその象徴として尊ばれ、さらに権威の証としても歴史の中に大きく係わってきました。

鏡が銅を主体にした金属で作られた時代は、その背面に文様を鋳出し、使う人の心を表現しましたが、ガラスで作られるようになると大量に生産できるため、姿を映したり光を反射させる道具として使われるなど多方面で活用されるようになりました。

身近な例では、車には鏡は欠かせないことに気付きますが、月の表面に置かれている鏡は、地球との光のやりとりで研究のための窓として役立ち、さらに宇宙ステーションは、電波を反射する鏡として利用されるなど、科学の世界では多角的に使われています。

今回の企画展でとり上げた〝鏡〟は、このように信仰や権威の象徴として誕生し、やがて姿を写す道具として私達の生活に深くかかわりをもって来ました。そして、未来の宇宙時代に向けても役立っている事実も確認しました。この企画展を通して、鏡の果たした役割にもう一度関心をもたれ、生活の中に生かされることを希望します。

昭和61年7月20日

館長　掛　川　一　夫